

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年10月30日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0874200413		
法人名	社会福祉法人 石下福祉会		
事業所名	グループホーム 千代川さくら館	ユニット名	1
所在地	〒304-0823 茨城県下妻市五箇574		
自己評価作成日	平成27年2月28日	評価結果 市町村受理日	平成27年11月4日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kihon=true&JigyosyoCd=0874200413-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年4月28日	評価機関 決 済 日	平成27年10月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>力を入れている点、アピールしたい点は、3点あります。まず入居者と一緒に土づくりから行った野菜を献立に織り交ぜながら、お年寄りの“幼い頃の味”を大切にし、一緒に調理して食していることです。また、その献立は、併用している特養の管理栄養士に栄養チェックしてもらっているのが安心です。摂取量もチェックして、脱水や低栄養状態、過栄養にならないよう注意もしています。次に入居者とその家族、職員の笑顔と笑い声が絶え間の無い事業所であることです。入居者とその家族、職員の昔ながらの“なじみの関係”を築き、一人ひとりを大切にし、共に支え、助け合い、いたわりあいながら暮らしています。最後に入居者の入浴は、できるだけ希望に沿い、2日に1回は入っていただくようにしています</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は緑豊かな環境に恵まれ、庭には草花や畑があり、利用者は四季の移り変わりを日々の生活で感じ取る事ができる。 職員と利用者は一緒に野菜を育てて食材として利用し、食事を楽しんでいる。 地域のボランティアや保育園児などを定期的に受け入れ、利用者が地域の一員として地域住民との関係が継続できるよう支援している。 管理者は職員からの相談に応じたり、職員との信頼関係を築きながら働きやすい環境づくりをしており、利用者も安心して生活している。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を管理者および職員は職員会議等で常時確認し周知している。ご利用者の視点に立ち、その思いを常に考えたケアを計画し実践、その振り返りをケア検討会議、職員会議で話しあって、必要ならばケア計画の見直しを行うなど、共通理解のもとご利用者を支援している。	「人の命は地球より重い」という法人の理念のほかに、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を管理者と職員で話し合っ作成し、玄関や事務室に掲示している。 管理者と職員は、職員会議等でその都度理念を確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。たとえば、周辺の散歩、地域のお祭り、買い物等を通して地域の人との交流し顔なじみの関係をつくり、更に積極的に地域のボランティアの慰問を招き交流を図っている。	町内会には加入していないが、自治会主催の祭りなどでは「子供みこし」が事業所に立寄ったり、利用者もみこしを担いだりして地域の中学生や小学生、地域住民と交流している。 フラダンスや尺八、はやし太鼓、生バンドなどの地域のボランティアや保育園児を受け入れたり、近くの保育園の運動会を見学するほか、事業所主催の納涼祭に地域住民を招待するなど、利用者が地域の人々と交流できるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流スペースでボランティア慰問会、夏祭り、駐車場で花火大会等の開催を地域代表の方に事前に連絡し、地域の方々に参加して頂いている。認知症高齢者の方々と一緒に参加し、ふれあいの機会を設けて認知症への理解やいざという時に支援を頂けるようなじみの関係を築いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催し、ご家族代表者、身近な地域代表者、行政の方に参加して頂いている。皆さんから率直な意見をお話し頂ける場として有効に活用させてもらっている。たとえば、「さくら便り」の発行し、職員研修の充実、行事の開催の増加などにつなげている	運営推進会議は家族等や市職員、民生委員、地域住民代表として区長、職員で、2ヶ月に1回開催している。 会議では事業所の活動や行事予定、外部評価への取り組み、マニュアルの改訂などを報告し、行政からは感染症の状況や対策、介護保険制度の改定などの報告を受けるなど、意見交換をしている。 会議で得た情報を参考に、インフルエンザが流行している時期は、家族等の面会を制限したり、手洗いを励行したりして利用者の健康支援に反映している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の空室状況、感染症の地域状況や予防に関する情報提供、ケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に市職員が参加しており、その際に必要な情報提供や助言を得ている。 管理者は空室状況などを伝えたり、地域の感染症の現状や予防に関する情報を得るなど、何か相談ごとがある時にはその都度相談をしており、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	管理者は「身体拘束に関する指針」を作成し、職員は内部研修や外部研修に参加して身体拘束の内容やその弊害について理解するとともに、居室や玄関の施錠はせず、身体拘束をしない支援に取り組んでいる。 現在は身体拘束が必要な利用者はいないが、やむを得ない場合に備え、「同意書」や「経過観察記録」等の書類を整備している。 帰宅願望が強い利用者には、職員で話し合って施錠するのではなく、見守りを励行したり、その人の感情の変化などを職員間で共有するなどして拘束をしない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は高齢者虐待防止法等について、外部研修および内部研修に参加して学習機会を持っている。また、その内容を職員会議において、参加しなかった職員にレクチャーし、その資料を職員がいつでも活用できる場所（事務所）に保管している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は外部研修および内部研修に参加して学習機会を持っている。また、その内容を職員会議において、参加しなかった職員にレクチャーし、その資料を職員がいつでも活用できる場所（事務所）に保管している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご利用者とそのご家族に口頭と文書を持って十分説明し、不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解していただいたことを確認し、納得した上で同意のサイン、捺印をしてもらっている。	/	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価を行い、その結果を閲覧できるように玄関に配置している。家族が集まりやすいクリスマス会を開催し、その際に満足度アンケートを実施し家族の思いを確認する機会を持っている。2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、家族側から率直な意見を貰っている。又ご家族に自由に記入できる意見箱を玄関に設置し、それらを運営に反映させている。	利用者からは日常のふれ合いや会話の中から、家族等からは来訪時や運営推進会議などで意見や要望を聞くよう努めている。 年に一度クリスマス会に参加した家族に「満足度アンケート」を実施しており、出た意見等を運営に反映しているが、参加していない家族等へのアンケート調査は実施されていない。 苦情相談受付窓口として、重要事項説明書に事業所の担当者や電話番号を記載しているが、第三者委員となる国民健康保険団体連合会などの公的機関が明記していない。	クリスマス会に参加した家族等だけでなく、全家族等へ無記名のアンケートを実施することを期待する。 重要事項説明書に苦情相談受付窓口の連絡先として、国民健康保険団体連合会などの第三者委員を明記すること期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を受け入れやすい雰囲気と関係を構築している。打ち合わせにおいて、職員は率直な意見を言える機会を設け反映させている。	管理者は月1回の職員会議時やその都度職員の意見や要望を聞いており、「朝方3時ごろ、居室の洗面台のドアを開け閉めして音を立てる方がいる」などの相談に応じ、原因や対策を一緒に考えてケアの質向上に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう、給与水準、労働時間、やりがいなど職場環境・条件の整備に努めている。	/	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員の研修を積極的にすすめている。月1回の法人内で研修する機会、外部研修に参加させるなど職員一人ひとりがスキルアップができる取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者は、管理者や職員が特養千代川さくら館との交流・合同研修会等で他の地域の同業者と交流する機会を持ち、勉強会、相互訪問等の活動を通じて、情報交換をし、サービスの質を向上させていく取組みをしている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホームの生活に慣れて頂くのではなく、ご本人が困っていること、不都合に感じている部分、を改善していき、ご本人の不安なこと、ご要望等によく耳を傾け、ご本人のお気持ちに寄り添ってご本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等をこちらから尋ねるとともに、常に耳を傾けながら、信頼関係を築いていけるように努めている。	サービスのご利用を開始する段階で、ご家族等が困っていること、不安なこと、ご要望等をこちらから尋ねるとともに、常に耳を傾けながら、信頼関係を築いていけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスのご利用を開始する段階で、ご本人とご家族等との話し合いをもち、その話の中で「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご本人を介護される一方の立場に置かず、ご本人らしさを大切にし、ご本人の今までの暮らしの中から学んだり、労わり合い、支えあう関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、ご家族を支援される一方の立場に置かず、ご本人とご家族の絆を大切にしながら、ご家族のこれまでの生活を労い、これからの生活を前向きに捉えて、ご本人と共に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで使い慣れた物、大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、電話などの連絡の支援に努めている。	センター方式を活用し、入居時に家族等に記載してもらい利用者の馴染みの人や場所、趣味などを把握している。 利用者の馴染みの人が継続して来訪できるようお茶を出して接待しているほか、馴染みのラーメン屋へ同行したり、好きな音楽をかけたりして利用者が慣れ親しんできたものを大切にするよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が楽しく関わり合い、お互いに支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設やご自宅に戻るなどしてサービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、ご本人やご家族の求めに応じて経過をフォローし、相談や支援に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、ご本人本位に検討してご家族の協力をお願いしたり、職員の関りを見直したりして希望に沿うようにしている。	職員は利用者との日常の会話や関わりから、思いや意向の把握に努めている。思いの表出が困難な利用者に対しては、入居時に得た基本情報や家族等からの情報をもとに、利用者の言葉や表情から思いや意向の把握に努め、職員会議で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等を、入浴のリラックスした時や、さりげない会話の中で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。たとえば朝のバイタルチェック、排泄状況などで体の状態を朝の整容までの様子から把握し、職員間で連携を図りその日の生活のサポートを決めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、ご本人、ご家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、ご本人らしさを大切にして、現状に即した介護計画を作成している。毎月のケア検討会議、家族の面会時など常にご本人の思いを尊重するようなケアを考慮し介護計画を立てている。	計画作成担当者は、アセスメントを実施してニーズを抽出すると同時に、利用者や家族等の意見や要望を取り入れ、週1回のケース検討会議や月1回の担当者会議で検討し、介護計画を作成している。利用者の状況の変化などは全職員で共有し、短期目標は3ヶ月、長期目標は6ヶ月でモニタリングするとともに、必要があれば再アセスメントをして介護計画を変更している。利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に見直しをしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録（介護記録）に記入し、職員間で情報を共有しながら（職員会議・ケア検討会議にて）、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化（個別ケア：外出、なじみの店への外食、買い物など）に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域が開催する催し物（菊人形、ポピー祭り、市の文化祭など）を把握し、ご利用者が参加できるよう支援している。また地域の保育園児との交流を楽しんだり、消防署と合同開催する消防訓練に参加するなど豊かな暮らしを支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、ご本人及びご家族等の希望を大切にし、入居前から馴染みのかかりつけ医に受診することができる。納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医の受診を支援しているが、全員が協力医療機関の医師が主治医となっている。 受診には職員が同行し、受診結果は電話や来訪時に家族等に報告している。 併設の特別養護老人ホームの看護職員により、健康相談や医療的なアドバイスを得られる体制になっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養の看護職員に相談できる関係を構築しているため、日常の健康相談や医療行為の支援を得ることができる。そのため、個々のご利用者が適切な受診や看護を受けられるようになっている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。併設した特養とともに週に1回、回診日があり、必要ならば受診できる体制づくりをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・ご家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者・ご家族と共にチームで支援に取り組んでいる。また、職員の不安を解消するため、研修の充実を図っている。	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階からご本人・ご家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者・ご家族と共にチームで支援に取り組んでいる。また、職員の不安を解消するため、研修の充実を図っている。	契約時に重度化した場合や終末期の対応について、利用者や家族等に口頭で説明をしているが、文章で説明するには至っていない。 重度化した場合や終末期のあり方について事業所ができることを説明し、段階に応じた対応について同意を得ている。 「看取りに関する指針」や「ターミナルケアマニュアル」を作成し、法人全体の研修に職員の代表が参加しているが、職員全員が不安なく対応できるまでには至っていない。	看取りに対応できることを口頭のみならず、契約書や重要事項説明書等に明記することを期待する。 職員の研修を充実させることで、利用者や家族等が安心して看取り介護を受けられるようになることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の急変や事故発生時に備えて、マニュアルをもとに、シュミレーションしている。具体的には、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けるよう努力している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また地域との協力体制を築いている。	併設している特別養護老人ホームと合同で年2回消防署立会いの総合訓練を実施しているほか、月1回事業所独自に夜間や地震などを想定した避難訓練を実施しているが、地域住民の参加を得るまでには至っていない。 避難訓練の実施記録を作成し、訓練で明らかになった課題を全職員で話し合っている。 災害に備え、併設の特別養護老人ホームに食料品や飲料水、オムツ等1週間分を備蓄しているほか、事業所独自にお米を1週間分備蓄している。	災害時には近隣住民の協力が必要になると思われるので、運営推進会議で検討したり、委員を通して避難訓練に地域住民の参加が得られるよう取り組むことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。日々の中でふれあいを持ち、いたわり合う気持ちを大切にし思いやりをもって接している。	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損なわない言葉かけや対応に努めている。 利用者を「～ちゃん」と呼ぶことの是非を職員間で話し合い、利用者信頼関係ができている場合を除いて苗字で呼ぶこととし、尊厳を持って接している。 個人情報に関する書類は、事務室の鍵がかかるロッカーに保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援し、その人らしい暮らしができ、その方が輝けるよう目指している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれ（理髪、毛染め、買い物、）ができるように支援している。その方のこだわりを尊重している。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、ご利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。中庭で一緒に作った畑の野菜などを調理して食事する事でより楽しめるよう努めている。馴染みの店への外食なども実施している。	利用者の意見を取り入れて職員会議で献立を立て、食材は併設する特別養護老人ホームの厨房に注文しているほか、利用者と職員と一緒に収穫した自家菜園の野菜も取り入れている。 職員は利用者と同じテーブルで、一緒に食事をしており、利用者は下ごしらえや盛り付け、配膳、後片付けなどの役割を担いながら食事を楽しんでいる。 行事で外出した際に、馴染みのラーメン屋に立寄るなどの外食支援を行い、食事を楽しむ機会を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や、習慣に応じた支援をしている。又、かかりつけの医師より水分制限の指示がある方はそれに従い、水分量を適切な量で摂って頂けるよう声掛けして支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。口腔内に食べかすが残り、寝ている間など誤って肺に入り、それが肺炎につながらないように口腔ケアを努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	おむつの使用を減らし、失敗を未然に防ぎ、ご利用者が傷付かない様に配慮している。一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄の不安を緩和できるように努め、排泄の自立に向けた支援を行っている。	職員は「排泄チェック表」を活用し、利用者の排泄リズムを把握して失敗を未然に防ぐ支援をしている。 日中のおむつ使用者は1名で、そのほかの利用者はリハビリパンツとパッドを利用しており、トイレでの排泄支援をしている。 夜間もおむつ使用者は2名のみで、時間でトイレ誘導をしており、おむつから布パンツになった利用者もいる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や毎日の運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、また個々の好みの浴槽の温度調整、入り方等を尊重して、ご要望に応じて対応し、入浴を楽しむことができるよう支援をしている。	入浴は2日に1回を基本とし、利用者の希望を取り入れて曜日や時間帯を決めずに入浴支援をしている。入浴を拒否する利用者には強要せず、「今からでかけるからきれいにしようか」などと声をかけたり、ほかの職員がタイミングを見計らって声かけをして入浴支援をしている。 皮膚が乾燥する利用者が多いので、ボディシャンプーの代わりに石鹸を使用し、快適な入浴となるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。認知症や廃用性症候群が進行しない程度にご本人の自由な生活時間を過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。服薬支援については細心の注意をはらって確実に服薬を確認している。また特養の看護師およびかかりつけ病院と連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。買い物が好き人のために介助しての外出、歌が好き人などのためにCDや歌帳を用意する、書道、季節の催し物に外出したりしている。農作業が好きの方は施設の菜園で職員と共に収穫作業をして頂いている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段は 行けないような場所でも、本人の 希望を把握し、家族や地域の人々 と協力しながら出かけられるよう に支援している	一人ひとりのその日の希望にそっ て、戸外に出かけられるよう支援に 努めている。また、普段は行けない ような場所でも、ご本人の希望を把 握し出かけられるように支援してい る。	天気の良い日には事業所の周りを散歩したり、 自家菜園の畑仕事を職員と一緒にいき、陽にあた ることを楽しんでいる。 車いすの利用者も歩ける利用者に押ししてもら い、一緒に外出を楽しんでいる。 年間外出計画を立てて、花見やこいのぼり見 学、運動会と、季節に応じた外出や近くのショッ ピングセンターへ買い物などに出かける支援をし ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人ひ とりの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援して いる	職員は、ご本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人ひ とりの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援して いる。外 出の際は、金銭の間違いがないう ように必要に応じた見守りなどの支援を している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電 話をしたり、手紙のやり取りがで きるように支援をしている	ご家族や大切な人にご本人自らが電 話をしたり、手紙のやり取りがで きるように支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居 間、台所、食堂、浴室、トイレ 等）が、利用者にとって不快や混 乱をまねくような刺激（音、光、 色、広さ、温度など）がないよう に配慮し、生活感や季節感を採り 入れて、居心地よく過ごせるよう な工夫をしている	居室および食堂は一般家庭照明を用 い窓の日差しはカーテンなどで調節 し、職員もゆっくり話すなど、音の 大きさや光の強さに配慮し、居心地 よく過ごせるような工夫をしてい る。玄関は四季の花があり、ご本人 及びご家族にとって親しみやすく安 心して出入りできる。毎日掃除を実 施し衛生的で清潔な共用空間づく りに配慮されている。	天気の良い日には、テラスでお茶を飲んだり、ゲ ームをしたりして外気浴や季節の変化を肌で感 じることが できる環境となっている。 各ユニットの居間兼食堂がつながっているため、利 用者は自由に行き来ができるようになってい るほか、 中庭に面しているため、テラスや中庭に出ること ができ、利用者は食事をしながら四季折々の花 を楽しんで いる。 壁には利用者が制作したちぎり絵や、利用者 と職員 と一緒に制作した大きなカレンダーが貼られて おり、 月日がわかり易いように工夫をしていたり、 テーブル には職員が自宅から持ってきた花を飾り、温 かい空間 となっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、独りになれたり、気の合ったご利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。歌の好きな方がたのテーブルを作ったり、ベランダ、玄関にベンチを用意しめいめい好きなように過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お布団等の寝具はご家族に相談しながら使い慣れた物や好みの物を持参して頂き使用してもらっている。今までご本人が使用していたものや思い出の品などを持ち込み、ご本人らしく居心地よく過ごせる工夫をしている。毎日掃除を実施し、衛生的で清潔な居室に配慮されている。	居室にはベッドや洗面台、衣服などを入れる収納ボックスを備え付けている。 利用者は馴染みの物品やテレビなどを持ち込むほか、家族の写真や利用者の作品を飾るなど、居心地よく暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーである。廊下は車椅子がゆったり通れる広さが確保されており、高齢者に使いやすい位置に手すり、コンセントなどがつけられている。自動火災報知通報装置設備のほか安全に暮らせるよう工夫されている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム千代川さくら館

作成日 平成27年11月10日

【目標達成計画】

優先 順位	項 目 番 号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	10	①クリスマス会に参加されたご家族からアンケートを実施していたが参加出来なかったご家族からはアンケートを取れていなかった。 ②掲示された重要事項説明書に第三者委員となる国民健康保険団体連合会などが明記されていない。	①ご家族から広く意見や要望を聞く様に努める。 ②苦情相談受付窓口として第三者委員を明記する。	①クリスマス会等、事業所が主催する行事において、ご利用者様並びにご家族様の参加不参加に関わらず、無記名アンケートを実施し、広く意見や要望を聞き、今後の活動に反映していく。 ②重要事項説明書に、第三者委員として、市町村や国民健康保険団体連合会等の公的機関を明記する。	①今年度のクリスマス会から参加されない方も無記名アンケートの実施を開始する。 ②3ヵ月以内に、重要事項説明書の修正を行う。
2	33	①入所時に重度化した場合や終末期の対応についてご家族に口頭で説明して重度化した場合や終末期のあり方について事業所が出来る事を説明し、段階に応じた対応について同意を得ているが、署名を頂いていない。 ②法人全体で行っている、ターミナルケアの研修に職員が全員参加できるまでに至っていない。	①終末期の対応を別紙の「見取りに関する指針」で説明し、ご家族に理解して頂く。 ②職員全員がターミナルケアの研修に参加し、終末期の対応を不安なく出来る様になる。	①看取りに対応出来る事を、入居契約時に、別紙「見取りに関する指針」でご家族様に説明した上で署名を頂く。 ②法人全体の研修を元に、事業所内における勉強会を開催し、職員個々の理解を深める。	①新規の入居者様には関しては、入居契約時に別紙「見取りに関する指針」を説明する。現在入居されているご利用者様に関しては、ケアプラン更新時等の機会を利用して説明を行う。 ②11月に開催予定の法人内研修後に、12月中に事業所内における勉強会を開催する。
3	35	災害時には近隣住民の協力が必要になると考えられるが、毎回協力を得られてはいない。	避難訓練の際は、地域の住民の方にも参加して頂き、災害時の為に地域との協力体制を築いていく。	2ヵ月に1回開催する運営推進会議において、会議に参加される地域の方にも一緒に避難訓練に参加して頂く。また年2回実施する消防署立ち合いによる合同避難訓練の際に、地域の消防団に参加して頂く。	運営推進会議の取り組みは、5月から実施済み。合同避難訓練への消防団の参加については、10月に実施済み。今後もその都度、地域の方や消防団等へ呼び掛けて連携を深めていく。
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。